

パネリスト (宮城県から)

齋藤 緑さん

災害FM「りんごラジオ」アナウンサー

宮城県山元

町にお住まいの齋藤さん。

今回で、3度目の来足となりました。



東日本大震災の被災地について

まちの約半分が被災しました。自然が起こしたことで、こんなに物がなくなるとは信じられませんでした。私は生かされてしまった、生きていかなければ・そんな思いでした。

あの日は仙台に勤務しており、3日後に帰宅しました。実は、被災地以外の人に会うことが怖い、被災から出ることが怖い時期がありました。

「りんごラジオ」が開局し誘いがあり、話さなければいけないという使命が生まれました。行方不明者の名前を読み上げる仕事でしたが、11年勤めていた「ふじ幼稚園」の教え子の名前が多く、心臓がバクバクしました。今でも確認できていない園児がいます。

幼稚園の園児の元気を発信することは、お子さんを亡くした人のことを思うと、ためらわれます。でも、支援してくださる方に、頑張っている姿を見てもらいたいので、発信して行くと思います。

これから、自分の住むまちをどんなまちにしたいかという質問に「山元町に人を留めたい、人にやさしいまちづくりを提案して行きたいです」と話されました。(Mi.K)

パネリスト (神戸市から)

中村 順子さん

NPO法人コミュニティサポートセンター神戸理事長

神戸阪神地区を拠点に、

地域社会のために、何かができる活動体を数多くつくってきた中村さん。



阪神淡路大震災の時、私は早瀬さんたちのグループに助けられる立場になりました。その時に、まちの中で活動するには、自分の地域が安心安全でなければならぬことを、身をもって体験しました。

そして、これからは地域コミュニティをフィールドとして、そこで出てくる問題を、その地域の人々が解決し、助け合う形にしていきたいと思い、それが今の仕事につながっています。

東日本大震災

あの時、自分には何ができるのか、一人現地へ行ってみたのですが、災害

規模がまったく異なり、これは阪神淡路のようにはいかないと思いました。

そこでまず、現地へお金を送る方針を立てました。次に、神戸に避難してきた人々のために、安心して暮らせる物的環境を整えることをしました。そして、もう少し広い視野から見られるグループと組んで、できることをやる方針を3番目に立てました。

神戸の経験を伝えたいという思いで大槌町に入り、そこに残っている人と人のつながりを作りました。支援される立場の人々が、支援する側に立った時、大きなパワーになることを経験から感じていたので、自立支援とは何かということ仮設住宅の人々に説き続けました。

阪神淡路と同様に、男性の中には、何をすべきか見いだせず、お酒で命を落とす方が出てきたため、これを何とかしなければと思いました。

新しい共助のスタイル

また、復興計画を作る場合、出席者は男性が大半を占め、意思決定の場にはアンバランスを感じたため、女性や若者など行政の手が及ばないメンバーを集め、その意思が反映される取組みを進めました。

地域の中に自分の出番をつくること、居場所と役割があること、これが新しい共助のスタイルだと思います。

(Ma.O)

フォーラムに参加して

会場アンケートより (二部抜粋)

● 私たちの日頃の活動に役立ちそうなアイデアがポンポン飛び出してきました。さすが、第一線で活躍している人たち。ノウハウをたくさん持っている様子で、もっと聞きたいところで終わってしまいました。

● 思った以上に勉強になった。全国からの取り組みを、もっとたくさんの人で聞きたい。

● 内容が濃く、勉強になりました。自分ができる事を見つめなおし、頑張ります。パワー頂きました。

● 早瀬さんの講演を聞きましたが、おもしろく、わかりやすく、感動しました。中村順子さん、こんなに強く活動されている方がいらっしやるのを知りました。

*** 編集後記 ***

東日本大震災時に、それぞれの繋がりの中で活躍された様子が伝わってきました。女性の力強さに目が覚める思いです。強い絆の中で、人と人がお互いを尊重し、理解し合い、納得がいくまで話し合い、新しいまちづくりと元気の復興が進むことを願っています。(Mi.K)